

クラウド・コンピューティング環境における Oracle ソフトウェアのライセンス (日本語参考訳)

承認されたベンダー

本資料は、以下のベンダーが提供するクラウド・コンピューティング環境に適用されます:

Amazon Web Services – Amazon Elastic Compute Cloud (EC2), Amazon Relational Database Service (RDS)、Microsoft Azure Platform、Google Cloud Platform (GCP)
(以下、これらを「承認されたクラウド環境」と表記します)

本ポリシーは、[これらのOracleプログラム](#)に適用されます。

承認されたクラウド環境におけるOracleプログラムのライセンス許諾の際には、お客様はインスタンスタイプの最大vCPUをカウントする必要があり、計算方法は以下となります。

- Amazon EC2 and RDS – プロセッサコアのマルチスレッディングが有効の場合 2 vCPU = 1 Processor、プロセッサコアのマルチスレッディングが無効の場合 1 vCPU = 1 Processor
- Microsoft Azure – プロセッサコアのマルチスレッディングが有効の場合 2 vCPU = 1 Processor、プロセッサコアのマルチスレッディングが無効の場合 1 vCPU = 1 Processor
- Google Cloud Platform – プロセッサコアのマルチスレッディングが有効の場合 2 vCPU = 1 Processor、プロセッサコアのマルチスレッディングが無効の場合 1 vCPU = 1 Processor

承認されたクラウド環境において Oracle Processor ライセンスをカウントする場合、Oracle Processor Core Factor Table は適用されません。

製品名称にStandard Edition One、Standard Edition 2もしくはStandard Editionが付くプログラムがライセンスされる場合、インスタンスのサイズに基づく価格設定がなされます。承認されたクラウド環境のインスタンスが4 Amazon vCPU以下の場合、もしくは4 Azure vCPU以下の場合、もしくは4 GCP vCPU以下の場合、1ソケットとしてカウントされ、これは1 Oracle Processorライセンスに相当します。承認されたクラウド環境のインスタンスが4 Amazon vCPU、もしくは4 Azure vCPU、もしくは4 GCP vCPUを超える場合は、4つのAmazon vCPU数ごとに（最も近い4の倍数に切り上げ）、もしくは4つのAzure vCPU数ごとに（最も近い4の倍数に切り上げ）、もしくは4つのGCP vCPU数

本文書は、Oracle Corporation 発行「Licensing Oracle Software in the Cloud Computing Environment」の日本語参考訳となります。(2024年6月12日更新)

内容については最新の英文「Licensing Oracle Software in the Cloud Computing Environment」が正式となります。

本文書は、オラクル・ライセンスのポリシーに関するガイドラインを教育目的に限って提供するものです。本文書は、いかなる契約にも組み込まれるものではなく、特定の条件に対する約定や約束を構成するものでもありません。ポリシー及び本文書は予告なく変更される場合があります。本文書は日本オラクル株式会社の書面による明示的な許諾なく、いかなる方法においても転載することは許されておられません。

日本オラクル株式会社

ごとに（最も近い4の倍数に切り上げ）、1ソケットのライセンス要件を構成します。

本ポリシーにより、承認されたクラウド環境のインスタンスにおいて保有するバーチャル・コア数がAmazon vCPUの場合16以下、Azure vCPUの場合16以下、GCP vCPUの場合16以下でのみOracle Database Standard Editionがライセンス可能です。承認されたクラウド環境のインスタンスにおいて保有するバーチャル・コア数がAmazon vCPUの場合8以下、Azure vCPUの場合8以下、GCP vCPUの場合8以下でのみOracle Database Standard Edition One、Standard Edition 2がライセンス可能です。Oracle Database Standard Edition 2をNamed User Plusメトリックにてライセンスする場合、最少ユーザー数は8 Amazon vCPU、もしくは8 Azure vCPU、もしくは8 GCP vCPUあたり10 Named User Plusとなります。

計算例 承認されたクラウド環境で Oracle Database Enterprise Edition を許諾:

マルチスレディングが有効な4 Amazon vCPUの1インスタンス上にOracle Database Enterprise Editionがライセンスされる場合、2 Processorライセンスが必要となります。
(2 Amazon vCPU = 1 Oracle Processorライセンスとみなします)

承認されたクラウド環境において、Named User Plusライセンスを適用することができません。その際、製品によっては最少契約数の制限が適用されます。

Oracle Linuxの場合、承認されたクラウド環境においては、2つのVMの合計サイズが64 vCPU以下であれば、1つのOracle Linux Basic LimitedシステムまたはPremier Limitedシステムとしてカウントされます。64を超えるvCPUで構成される1つのVMは、1つのOracle Linux BasicまたはPremierシステムとしてカウントされます。

数量無制限使用プログラム(ULA)により取得されたライセンスは、承認されたクラウド環境で使用することはできませんが、お客様はそれらのライセンスをULA期間が終了する際の証明書に含めることはできません。

上記の例は、単に例示を目的とするものです。

本文書は、Oracle Corporation 発行「Licensing Oracle Software in the Cloud Computing Environment」の日本語参考訳となります。(2024年6月12日更新)

内容については最新の英文「Licensing Oracle Software in the Cloud Computing Environment」が正式となります。

本文書は、オラクル・ライセンスのポリシーに関するガイドラインを教育目的に限って提供するものです。本文書は、いかなる契約にも組み込まれるものではなく、特定の条件に対する約定や約束を構成するものでもありません。ポリシー及び本文書は予告なく変更される場合があります。本文書は日本オラクル株式会社の書面による明示的な許諾なく、いかなる方法においても転載することは許されておりません。

日本オラクル株式会社